

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 京都市 】

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	京都私立大宮小学校 4年生, 3クラス, 113名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 (総合的な学習の時間)</p> <p>② 行事名 ()</p> <p>③ その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	障害のある人のことを知り,障害の有無にかかわらず一生懸命に生きることや,自分でやろうときめたことは,粘り強くやり遂げる大切さに気付く。
5 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳「挑戦し続ける」で車いすバスケット選手「土田さん」について学習する。 ・総合「挑戦し続ける」で,パラリンピック競技『車いすバスケット』やパラリンピック競技など興味をもったことテーマに掲げ調べ学習をする。 ・オリパラ事業で,車いすバスケットを体験・選手の話聞き理解を深める。 ・自分の決めたテーマについて,新聞にまとめる
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・パラリンピック・車いすバスケットについて興味をもてた。 ・「体に障害があっても,あきらめない気持ちは大切である」ことを子供たちが感じる事ができた。 ・共に生きるためにお互いに相手の過ごしやすい環境を整えること例えば,地面にガラスやごみガムのようなものがあると車いすのタイヤに付く。車いすに乗っている人はタイヤを手で回すため手が汚れ

	る。タイヤがパンクする。
7実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> ・4年生で取り組む総合の中の福祉で学習計画をたて、体に障害があってもあきらめない心を持ち、生きていくことの大切さを子供たちが感じるようにした。
8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちにとっては成果が大きかったが、計画(準備・業者手配)には学年のみでは難しく、継続していくためには引継は必須。 ・パラリンピックに対する知識が依然として少なく、パラリンピックを通して障がい者に対する理解を深めるための事前事後の指導をより工夫したい。
9来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉教育とパラリンピックのつながりを意識した計画を立て、継続して取り組みたい。 ・北区社会福祉協議会とも連携し、パラリンピックを盛り上げるとともに、子どもたちの福祉活動に対する幅広い経験を積ませていきたい。